

Part E: Conversation strategies

E.1. Making a list of strategies

目的:

会話上達のためにどのようなストラテジーを使うとよいか考えさせる。

教材:

SILLの日本語版

時間: 15分

手順:

1. 会話をしている時にどんなことで困るか3、4人のグループでディスカッションをさせる。ディスカッションで出て来たものを教師は板書する。

例:

相手が自分の言っていることが分からない。
相手の言っていることが分からない。
言いたいことをどう言えばいいのかわからない。
単語が分からない。
恥ずかしい／緊張する。

2. それぞれの問題に出会った時、何をすればいいかグループで考えて、発表させる。

例:

もう一度聞く、ゆっくり言ってもらおう、自分の理解を確かめる。
他の言い方をさがす。トピックをかえる。
ジェスチャーや絵を書いて相手に単語を教えてもらう。
例を使って単語や言い方を教えてもらう。
大きく息を吸う。コーヒーを飲む。

2. SILLの日本語版を読みながら、会話学習で使えそうなものをあげて、リストを作る。リストの名科でよくやっていること、もっとやらなければならないことをチェックさせる。

E.2. Using affective strategies

目的:

自分を励ましたり、リラックスさせたりして、学習効果をあげる。

協力者および教材:

日本人のゲスト、できれば2、3人。パーティ風にお菓子や飲み物。リラックスできる音楽。
小さいメモ帳。

時間: 15分

手順:

1. 人前で何かをする時や緊張しそうな時に何をするか、お互いにきいて、教室でできそうなものをみんなで作ってみる。(深呼吸をする、体操をする、瞑想する、今からすることをどうやってするか頭の名科でイメージする)
2. ゲストをよぶ前に、今から日本人ゲストを相手に何でもいいから会話をしなければならないが、緊張しないように何をするか3、4人のグループで相談させる。会話の前にできることは実際にやってみる。
3. 教室をパーティ会場にみたてて、飲み物やお菓子をおき、音楽を流す。椅子は教室のすみにおき、全員立つ形にする。ゲストを呼んで、簡単な会話をさせる。
4. ゲストがかえった後、緊張したか、緊張した時、緊張を解くよう努力したか、ふりかえさせる。
5. 自分をリラックスさせるために何をするかリストとメモ帳に書く。また、この日使えそうだった表現や単語などもメモさせる。

E.3. Asking for help and correction

目的:

会話がうまくいかない時に、日本人に助けを求めるストラテジーの導入と練習。

協力者と教材:

日本人ゲスト
小さいメモ帳。

時間: 30分

手順:

1. あるトピックを選んでおいて、それについて日本人ゲストにインタビューをする為に、各自質問を3つぐらい作らせる。
2. 会話がうまくいかない状況を思い出させる。相手の言っていることが分からない時、何と云えばいいか、使えそうな表現をグループでできるだけたくさん考え、発表させる。各自自分のメモ帳にかく。みんなで声を出してスラスラ言える練習をする。

例:

すみません、もう一度言って下さいませんか。
あのう、いまよくわからなかったんですけど。
すみません、ゆっくり言って下さいませんか。
～っていいましたか／おっしゃいましたか。
～ってなんですか。
～ですか。

3. 学生にインタビューの質問を教師に向かってさせる。教師は学生に分かりそうのない表現を使って返事をする。学生はいろいろな表現を使って、分かりやすい返答を教師から引き出す。
4. 次に自分が言っていることを相手がわからないかもしれない状況で使える表現をグループで考え、発表させる。各自自分のメモ帳に書く。みんなで声を出してスラスラ言える練習をする。

例:

(私の言っていること) わかりますか。
この表現／文は正しいですか。
間違っていたら、直してください。
意味が分かりますか。

5. 学生をペアにして、自分のインタビューの質問をお互いに聞き合う。自分の言っていることが相手に分かっているかどうか練習した表現を使って、チェックさせる。又、相手の言っていることが分からない時は、その前に練習した表現を使って言い直しを促す。メモ帳を見ながら使ってもいい。

6. 日本人ゲストを呼んで2、3人1組でインタビューをする。インタビューした事項をノートに書かせる。この時、相手が自分の言っていることが分かっているかどうか確認し、相手の言っていることが分からない場合には、分かりやすく言うよう依頼する表現を、メモ帳を使いながら、いわせる。ゲストの答えをメモさせる。
7. ゲストがかえった後で、グループになって、表現が使えたかどうかについてディスカッションをする。うまくいかなかった場合はどこに問題があったか反省点を考えさせる。

E.4. Preplanning, assessing background knowledge, potential problems & resolutions

目的:

会話の前に会話トピック、会話のながれ、言語に関する既存知識を思い起こし、会話の中で問題になりそうな点、その解決方法等を推測して準備することで、会話をスムーズには込むようにするストラテジーの導入と練習。

教材：ハンドアウト (Preplanning,) ロールプレイカード4、5セット

時間：30分

手順：

1. ハンドアウトを配付し、全員に読ませ会話の前に準備することを確認。
2. 3、4人のグループにする。全員に同じロールプレーのタスクをあたえる。ハンドアウトをもとにして、そのロールプレーをするのに必要な次の事項を話し合い、結果を発表する。
 - ・会話の目標(goal) と目的(purpose)
 - ・タスクについて知っていること。
 - 会話をする状況 (setting)
 - 話手と聞き手の関係
 - 文化的背景 (cultural schemata)
 - ・言うこと
 - 会話の進め方、流れ
 - 使える単語、文法
 - ・話す時に問題になることを考えておく。
 - ・目的やタスクがよく分からない時は、聞く。
3. 考えた事項をもとに、会話をしている自分をイメージさせる、そして、無作為に学生を当ててロールプレイをさせる。
4. 各学生に同じロールプレーカードを渡す。2、3分与えて自分で必要事項を考えさせる。そして、無作為に学生を当ててロールプレイをさせる。
5. 学生をペアにし、ロールプレーカードを渡し、2、3分各自で必要事項を考えさせる。次に相談して必要事項を確認。終わったら手をあげさせる。終わったらすぐロールプレイをさせる。

Handout: Preplanning

っせ1すじさ1ら。むウ、ぐv ~

セ、ら。...

- d . 5 くやイ。) l がm .、ぐ
げ 31
 やひどけ、ぐ (Take a deep breath)
げ v s え m
 て。げ/セ、がm .、ぐ
 めみ。セ、まかけこ。g し、ぐ
い t 4 か m い t ー s
 d ジエ (goal) ~ジを (purpose) けつp あぐc
 d すじさ。 : l ーわ・ーl ぐv ~けふn ーo t c
か ms か m
 っせけ、ぐもなh I3LL6C4.
 セみ~グs み1とに
21 u 1
 クだをイのh 2P7PH 7I253: 1L1.
 d ばmv ~けふn ーo t c
 (m う・ーせけゆあぐp けふn ーo t c
 (げ) ろびうクゲけ。mp けふn ぐ
 d セ、。スれ。) ぐv ~けふn ーo t c
い t ー s
 d ジをうすじさr がt カp き) l . 2a グt c

っせ1すじさ1ら。むウ、ぐv ~

セ、ら。...

- d . 5 くやイ。) l がm .、ぐ
げ 31
 やひどけ、ぐ (Take a deep breath)
げ v s え m
 て。げ/セ、がm .、ぐ
 めみ。セ、まかけこ。g し、ぐ
い t 4 か m い t ー s
 d ジエ (goal) ~ジを (purpose) けつp あぐc
 d すじさ。 : l ーわ・ーl ぐv ~けふn ーo t c
か ms か m
 っせけ、ぐもなh I3LL6C4.
 セみ~グs み1とに
21 u 1
 クだをイのh 2P7PH 7I253: 1L1.
 d ばmv ~けふn ーo t c
 (m う・ーせけゆあぐp けふn ーo t c
 (げ) ろびうクゲけ。mp けふn ぐ
 d セ、。スれ。) ぐv ~けふn ーo t c
い t ー s
 d ジをうすじさr がt カp き) l . 2a グt c

E.5. Monitoring and involving oneself to maintain control during conversation

目的:

会話をしている間、会話の進行状況をモニターしつつ、諦めないで会話に会話に集中していくように自分をコントロールする

協力者と教材:

ハンドアウト (conversation check list)、小さい紙に単語を書いたものがたくさんはいつている封筒、日本人のゲスト

時間: 100分 (two class hours)

手順:

Day 1

1. 分からないことが言えない時の言いかえの練習をする。初めに2、3単語を言って学生に例を言ったり、他の言葉で言いかえたりして全体で練習する。次に、学生を3、4人のグループにし、小さい紙に単語が書いてあるものをたくさん封筒に入れ、各グループに渡す。グループの一人が封筒から紙を一枚取り出し紙に書いてある単語を他の単語を使ったり、例を使って言いかえる、グループの他のメンバーはその言葉を当てる。正しく当てた者が紙をもらう。一番多く紙を集めた人が勝ち。
2. 会話タスクに入る前に、会話のチェックリストを配布、全員で声を出して呼んで意味を確認する。
3. チェックリストにある項目をもとにどのような表現が使えるか、ペアで復習しあい、各自メモ帳に記入する。

例:

分からない時は聞く・意味を確かめる

～ってなんですか、すみません、もう一度言ってくれませんか、～の意味はなんですかなど。

困った時は相手に質問して助けてもらう。

～は日本語でなんと言いますか。～はなんですか。

相手が分かっているかどうか確認する。

わかりますか。正しいですか。

わからない単語や文法は他の方法で説明する。

似ている単語を使う

ちがう単語や表現を使って説明してみる

ジェスチャーする

例を使って言い換える。

言いたいことを簡単にする (シンプルなメッセージにする)

静かにならない（何か言うようにする）

あのう、ええっと、それで。ええ。

4. あるトピックを与えて、日本人にインタビューするという想定で前作業の質問をグループで考えさせる。

Da 2

1. 会話のチェックリストを学生同士で復習。インタビューの内容や会話の流れなども復習。
2. 日本人のゲストをかこんでインタビューする、チェックリストをよく見えるところにおき、自分の発話をモニターさせる。この会話はビデオにとる。
3. 会話の後で、チェックリストの項目を次の基準で自己評価させる。
 - 5 いつもできた
 - 4 たいていできた
 - 3 まあまあできた
 - 2 あまりできなかった
 - 1 . とんどできなかった。
 - . . んせんでできなかった。

Handout: Conversation chec. list

っせじせそずしg e セ。ーl ぐ。

すじさ1。あ。むウ。 。v ~h オはうクゲi け。 m		
。 s きあ) l ,0 DC)L4 63 PE(.		
お・t くセ、 h ふn ぐ。 でけぶぐ。 あ。 i		
りみ1ば・ーl ぐv ~けがt グt		
りみr (げ) v ~けばmp よる、 ぐ		
カp き) l . 2 グl 。 くa たシけつp あ。 く、 ぐ		
わからない単語や文法は他の方法で説明する		
困った時は相手に質問して助けてもらう		
りみr カp ・ーl ぐp (mp つア、 ぐ		
よp 。) き) l h ちp ばmがm 。 、 ぐi		
んコび/ふn ぐ		

っせじせそずしg e セ。ーl ぐ。

すじさ1。あ。むウ。 。v ~h オはうクゲi け。 m		
。 s きあ) l ,0 DC)L4 63 PE(.		
お・t くセ、 h ふn ぐ。 でけぶぐ。 あ。 i		
りみ1ば・ーl ぐv ~けがt グt		
りみr (げ) v ~けばmp よる、 ぐ		
カp き) l . 2 グl 。 くa たシけつp あ。 く、 ぐ		
わからない単語や文法は他の方法で説明する		
困った時は相手に質問して助けてもらう		
よp 。) き) l h ちp ばmがm 。 、 ぐi		
んコび/ふn ぐ		

E.6. Evaluating, identifying problems, and planning for future occasions

目的:

自分の発話を評価し、問題点や改良する点を分析し、将来の会話に役立てる。

教材:

学生の会話をビデオにとったものとテープにとったもの、テープレコーダー
Preplanning のハンドアウトと conversation chec. list のハンドアウト、イヤホン

時間: 30分

手順:

1. 前作業をして作ったロールプレーやインタビューのビデオや音声テープをグループで聞く。その中の一人に注目する。Preplanning のハンドアウトと conversation chec. list のハンドアウトをみながら、何がうまくいったか、何がうまくいかなかったか話し合う。そして、どうすればよかったか話し合う。
2. 各学生に自分の発話が入っているテープを渡す。テープを聞きながら、前作業や、会話中の自分のストラテジーの使い方を評価させ、レポートを書かせる。そして、次にどのようなことに気をつける。きか考えさせる。
3. ペアになり、パートナーに自分のテープを聞いてもらい、コメントをもらう。自分自身の評価とコメントを読んでもらい、さらにコメントをもらう。